おすみやぐらあと
御角櫓跡

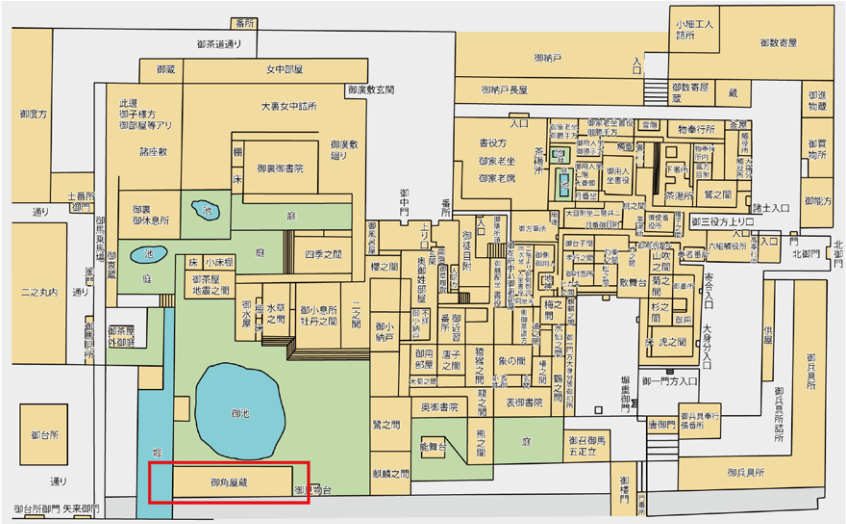
Osumi Yagura Ruins
각루 유적
城角箭楼遺址
城角箭樓遺址

御角櫓は鹿児島（鶴丸）城本丸居所の内堀に面した南端に位置する櫓でした。長さ約 20 メートル、幅約 7.5 メートルほどの建物だったと推測されます。平成 11（1999）年に、石垣の補修事業に伴って実施された発掘調査では、現地表面下約 1 メートルの地点で櫓の基礎の一部が発見されました。

基礎の石組みは、長さ 10 メートル、幅 3.8 メートル程度が残存しており、このことから、御角櫓の外壁は、石垣の上と切石を並べた礎石の上に建っていたことが分かりました。御角櫓の周辺には、幅 0.6 メートルほどの雨落ち溝（排水溝）が巡らされ、同幅の犬走りがありました。犬走りや基礎の石積みには漆喰で固められていた痕跡が残っています。

御角櫓は館の南東角に位置し、城の防御とともに美観や威厳を保つ役目を持つと考えられている施設ですが、明治初期の資料では「御角屋蔵」と表現され、物品収蔵施設としての用途もあったものと思われます。

13 代将軍徳川家定の御台所となる篤姫（のちの天璋院）が嘉永 6（1853）年 6 月 15 日に、ここから祇園祭を見たとの記録が残っています。



明治 5（1872）年撮影の御角櫓